

めぐニュース

かぐめよし少年自然の家だより 令和4年10月発行

かぐめよし少年自然の家では、小学5年生を対象とした「自然教室」のプログラムの一つに「ダムカヌー」を実施しており、北九州市民の貴重な水がめを大切に使用させていただいている。例年であればカヌーを仮置きしている場所から少しの所で乗艇できるが、今夏は例年にも増して水量が少なく、浅くて岩がごつごつ顔を見せる川を約500mほど下らないと乗艇できない。その後、台風14号による降雨で、市内でも雨が多いこの付近では約300mmの大雨となり、現在でも川は滔々と水を湛えている。

また、今年度の新規事業で、「観天望気学習キャンプ」を実施したが、雲ができる様子や北半球における『渦』を再現した実験や、実際の夜空の観察などを行い、参加していただいた小学5年、6年の子ども達は、興味津々。

夜間に仕掛けた赤外線センサーカメラの画像をみんなで見てビックリ！なぜ果肉の無い、種部分だけの銀杏が散らばっているのか？と、薄々疑ってはいたが、何と登場動物の3～4頭のタヌキが「銀杏」の果肉をムシャムシャ食べていた。他地域のタヌキも食べるのだろうか？

不安定な降雨、日照の状況や、独特な臭気の銀杏の果肉をも食べる野生動物や、季節感のズレ等々、「散見」されていた状況が変化していると感じる。先達から預り、次代へわたす『自然』を大切にするとともに、子どもたちの実体験や心の豊かさの醸成を大切にしたい。

主催事業のお知らせ 11月～1月

	事業名	時期	対象者・人数
11月	第2回初めての陶芸教室	11月6日(日)	1回目の参加者
	かぐめよし自然少年団④	11月12日(土)～ 11月13日(日)	かぐめよし自然少年団に所属する団員
	市民センター職員等研修会	11月22日(火)	市民センター職員等
12月	クリスマスリース作り	12月4日(日)	小・中学生とその保護者7家族
	ぺったんぺったんお餅つき	12月10日(土)～ 12月11日(日)	小・中学生とその保護者15名
	第2回ボランティア研修会	12月18日(日)	施設ボランティア
1月	かぐめよし自然少年団⑤	1月14日(土)～ 1月15日(日)	かぐめよし自然少年団に所属する団員
	親子でワクワク！工作教室	1月22日(日)	小・中学生とその保護者5家族
	放置竹林対策事業	1月28日(土)	大人 定員未定

※今後の新型コロナウイルス感染状況によっては、事業を縮小・中止することがございます。

※主催事業の募集は全て市政だよりに掲載します。応募は市政だよりをご覧ください。



主催事業報告



第2回かぐめよし自然少年団



もし少年自然の家で活動している、MAC と合同でキャンプを開催しました！始めは緊張感がありましたが、自然と打ち解けてしまうのがキャンプの魅力！子どもたちは今年初めて入る川で、思いっきり水を掛け合ったり、一緒に生き物探しをしたりしているうちに、いつの間にか会話が生まれていました。

来年はもし少年自然の家で開催予定です。海での活動を楽しみにしたいと思います！



親子でかぐめよしダムカヌー

今年のダムカヌーは、まず渚ダムの貯水率低下の影響で、まずは歩いて川下りスタート。カヌーが乗れるところまで約 500m も川の中を歩きました。そして、いよいよ乗艇。緑に囲まれながらのダムカヌーはとても気持ちがいい！頂吉ダム堰堤までゆっくり進み、堰堤下で参加者皆でカヌーを組んで綺麗な円を作りました。始めはおっかなびっくりだった参加者も、戻るところにはスイスイ漕ぎ、初夏のかぐめよしを満喫しました。



水環境体感キャンプ

7月に事前研修会を実施した後、今年も8月に15人の団員で桜橋から紫川を3泊4日かけ、起点を目指しました。ただ川の中を歩いて進むだけではなく、途中で川の中の生き物や水辺の植物について学びながらの活動でした。川の中を長距離歩く機会は普段なかなかないので、子どもたちにとって、貴重な



経験になったのではないかと思います。また、何度もソロテントを建てるうちに、とても素早く建てるようになっていました。連日暑い中での活動でしたが、無事全員で元気にゴールすることが出来ました。みんなよく頑張りました🌸



第3回かぐめよし自然少年団

第3回の少年団は、みんなで紫川最上流部の生き物採集したり、かぐめよしダムでカヌーを行いました。生き物採集では、まだまだ暑さも残っていたので、団員たちは泳いだりもしていました。カヌーでは湖面では風が強くて、堰堤まで行くことが出来なかったけれど、みんなでイカダを作ったり、大きな1つの円になったりして楽しみました。夜は、紫川に住んでいるオヤニラミやアブラボテなど生き物を観察したり、お天気の学習をしました。次の少年団は11月。かぐめよしの木々は冬の準備が進んでいるでしょう。



家族でキャンプだホイ！

♪キャンプだホ～イ！
キャンプだホ～イ！キャン
プだホイホイホイ！！
♪この歌、ご存じですか？

爽やかな秋空の下、6家族21名がテント泊を楽しみました。日中は2日間の自分たちのベースキャンプとなるテントを張ってからの川体験。みんなで協力して熾した火で野外



調理、夜はキャンプファイヤーを囲んでレクリエーションと盛り沢山の内容。家族同士、参加者同士の絆が深まりました。

初めてのテント泊という参加者もいらっしゃいましたが、秋の夜長、虫の音を聴きながらの睡眠。良い夢見られたかな？

第1回初めての陶芸教室

第1回目の陶芸教室は、4家族10名が参加。一人1ずつ来年の十二支「卯」の土鈴とカップ、1家族に1つの大皿を作りました。土を練って、作品を形作っていく表情は真剣そのもの。土鈴には個々の、大皿にはそれぞれの家族の個性が出ていました。

次回11月はいよいよ釉薬付け。展示していた11種の釉薬の見本を見ながら、出来上がりをイメージしながら、皆さん帰途に就きました。11月6日、皆さんが元気に戻ってこられるのを楽しみにしています。！



頂吉図鑑

～第29回～

篋の木（ヘラノキ）



今回ご紹介するのは、篋の木（ヘラノキ）です。前回の萵苣（チシャ）に続いて篋という漢字もなかなか読めませんね。靴ベラのヘラです。

なぜヘラの木なのか。花や実を見ることが出来れば一目瞭然です。総苞葉（花序のもとを包むように変形した葉）が細長いヘラの形をしているからです。「見ることが出来れば」とわざわざ断わったのは、樹が高く、なかなか見ることが難しいからです。少なくとも、私は、かぐめよしでヘラノキの花を確認出来ていません。

このヘラノキは、私にとってずっと「この木なんの木？」の一つでした。葉も高いところに繁り落ち葉になっても確証がもてない。樹皮は杉のような感じで特徴的なものにもかかわらず、答えにたどり着けないもどかしい思いを長い間してきました。それとは別に「この実なんの実？」で一度登山中に拾った謎の実。写真も撮るのを忘れ紛失してしまい、ずっとあれは何の木の実だったんだろうと思って7、8年が過ぎたでしょうか。ある年、謎の木の幹の低いところから一本の枝が出ているではありませんか。手に取ることの出来た一枚の葉によって、ヘラノキという答えにたどり着くことが出来ました。そして実を調べてみると、なんとずっと判らなかった謎の実ではありませんか。長い間の謎が解けることは感慨深いものです。

このヘラノキはシナノキの仲間です。ヘラノキを知らずとも、シナノキなら聞いたことあるよという方も多いのではないのでしょうか。シナノキにも同じようなヘラの形をした総苞葉が出来ます。ヘラノキの学名を調べてみると【*Tilia Kiusiana*】九州シナノキと名付けてもよいような学名です。こちらの方が、シナノキの仲間だとわかって余程分かりやすいのに、誰がヘラノキなどと名付けたのでしょうか・・・更に調べてみると、なんと私の尊敬する牧野富太郎先生による命名でした。

シナノキの仲間は樹皮が丈夫で、裂いて縄を編んで（ナッテ）、日常生活の様々なものに使われてきました。シナノキの縄で編んだ籠は丈夫なので有名です。ちなみに、信濃（シナノ）地方のシナノはシナノキが沢山生えていたからという説があります。いつかヘラノキの樹皮で縄を編んで籠をつくってみようと思います。そして来年こそは花（6～7月）を確認してみようと思っています。

北九州市立かぐめよし少年自然の家

住所：〒803-0267

北九州市小倉南区大字頂吉451-1

電話：(093) 451-3111 FAX：(093) 451-3133

